

第21回特別展

神戸開港120年記念特別展

明治のガラス展ーびいどろからガラスへー

江戸時代に「びいどろ」というポルトガル語で呼ばれたガラス器は、多くは鉛分の多いガラスで、もろくこわれやすいものだった。人々は、そのためにヨーロッパから輸入される堅くてこわれにくいガラス「ギヤマン」を珍重した。日本のガラス技術は、常にヨーロッパ製品をモデルとしており、その動きは幕末に欧米の文物が大量に流入するようになると急速に高まった。明治のガラス工業への道は、幕末期に準備され、明治末期には外国に逆にガラスを輸出するまでに成長を遂げた。

本展は、江戸から明治への社会体制の変化の中で、「ガラス製作」がどのように推移していったかを、多くの初公開資料によって概観した。



※この図録は完売いたしました。



会期／昭和62年10月9日（金）～11月29日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館

主催／神戸市立博物館、神戸新聞社、サンテレビジョン、ラジオ関西

協賛／サントリー株式会社、大丸ANNEX LIVE LAB WEST

開館日数／44日

入館者数／24,992人

出品件数／257件